

メキシコの會員より

謹啓、當州の地方週刊新聞は墨都よりの通信として、來る十一日頃より十六日迄の午前〇時には流星が我等の頭上に降りかからんと、一大文字で報じて居ります。多分アンドロメ座の流星群の事と思はれます。

有名な南十字星は近頃水平線上から姿を消しました。北極星は降雨期のため一年の内六ヶ月は連山を包む濃雲のため、観測する事が不可能です。ために六ヶ月間は天文観測は全然不適當な土地です。明年からは雨期を利用し天候即ち測候観測を行ふ心算です。これに反し十一月から四月末日迄は燥期故、色々な一等星を有する星座が見られ楽しみです。私は朝夕太陽黒點スケッチをメキシコ天文臺に送り色々新智識や新語を學びたるのみならず、通信上で、ホアキン・ガアヨ！理學士 (Ingeniero Joaquin Gallo 國立天文臺長) と仲々親密になりました。色々の参考書 (西文) を送られ赤面した程です。

十一月十九日

松 居 猪 三 郎

Aurelio Matsui

Escuintla, Chis.,

Mexico.

=====

雜 報

=====

散亂せる銀河星雲の光りについて

米國井ルソン山天文臺のホブル E. B. Hubble氏が1922年頃發表した研究に據れば、かのオリオン大星雲等の如き散亂星雲は決して自發の光りを放つてゐるのではなく、むしろ此等は、其